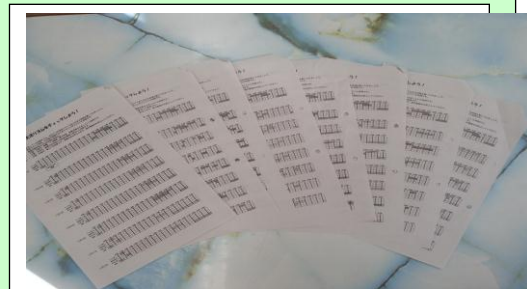


釜石市教育振興運動協議会

- 「
テ
ー
マ
」
- 震災を超えて・新たな教育課題への取組
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
 - PDCAサイクルによる推進の取組
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
 - 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

活動のようす



『子どもの生活リズムの向上』

～生活習慣の「可視化」から始めよう～

1 地域の教育課題

- ・子どもの家庭学習や読書の時間が短く、テレビの視聴時間が長い。
- ・内陸との学力の格差。
- ・震災後、仮設住宅居住者を中心に、狭隘な住宅事情で家庭学習する場所が確保できない。
- ・高齢者を中心にテレビ漬けの生活習慣が定着し、子どもがテレビをつけながら学習せざるをえなくなっている。

2 役割分担と年間の計画

○課題解決のためのそれぞれの役割

<子ども>

早寝早起き朝ごはんを中心とした生活リズムの定着による生活全般にわたる自発的な活動をする。

<保護者>

子どもの生活リズムの定着に向けて、ライフスタイル全般を点検し、子どもとともに家庭生活のありかたを検討する。

<先生>

本来の役割である学校教育を充実する。

<地域>

震災からの復興を第一とする中で、復興後の復興を支える子どもの育成も視野に入れたライフスタイルを取り入れる。

<行政>

優良事例の広報等を通じ、5者それぞれの役割と活動を下支えする。

○課題解決のための年間の取組

全児童・生徒を対象とした「生活リズムチェック」を行い、1週間にわたり家庭学習・テレビ・睡眠の状況を可視化する。

可視化した状況をもとにアンケート調査を行い、市内の子どもたちの生活実態を明らかにするとともに、調査結果を明らかにして、市全体の課題として提起する。

3 取組の様子

平成24年11月12日(月)から11月18日(日)を期間として、全児童・生徒を対象に生活リズムチェックを実施した。

【概要(速報)】

- 対象 市内全児童・生徒
小学生 1,697名、中学生 947名
- 回収率 85.2%
小学生 84.3%、中学生 86.9%

○大まかな傾向

・家庭内での生活時間中の多くでテレビがついていると想定され、特に3世代同居など家族の多い家庭においてその傾向が強い。

・小学校高学年から、家庭内でのテレビ視聴時間が長くなる。

・約半数の家庭で、児童生徒がテレビをつけながら勉強している時間がある。

・家庭学習の時間、睡眠時間については、概ね全国学力・学習状況調査の傾向とリンクする。

○自由記載の主な内容

・今の実態がわかってよかった。改善すべき点がたくさんあると気づいた。

・TVをつけないようにしたら、学校の様子を大人も余裕を持って聞くことができた。

・TVを見なくてもつけるのが多い。自分や子どもなら注意して消せるが他の家族の場合は難しい。

・色々な家庭事情がある。何が正しい生活リズムかは親が一番よくわかっているのに、コミュニケーションを取りたくても仕事が忙しくて取れない親は、この調査でとても傷つくと思う。

4 課題解決を判断する評価の方法

生活実態の可視化を引き続き進め、家庭内でのライフスタイルのありかたを検討する機会を設けていく。

数値的な評価は、毎年実施される全国学力・学習状況調査の結果により継続して評価していく。